

公民館を訪ねて

緑もえる里 六条

— 緑広がる住みよい教育のまち —

六条公民館

1 六条地区の概要

六条地区は福井市の南東部に位置し、南には文殊山を望み、北東部は足羽川に接する田園地帯である。小稲津、上六条、天王(てんのう)、下六条、上筋生田(かみあぞうだ)、下筋生田、足羽団地一区、二区の八つの集落で成り立っている。

以前は稲作農業を主とする農村地帯だったが、近年は農業以外の世帯が増えつつある。地区内には北陸自動車道、国道8号線、JR北陸本線、越美北線等の幹線が通り、交通の要衝にもなっている。

緑広がる美しい田園地帯には、福井県生活学習館(ユニー・アイふくい)、福井県中小企業産業大学校、福井県産業会館、福井県立図書館、福井市南体育館等の文化・体育施設があり、教育環境に恵まれた住みよい地域となっている。しかし、核家族化が進み若い人たちが地区外に住む世帯が増えたことと、全国的な少子化の影響もあり、六条小学校においては児童数が減少している現況である。

令和元年5月1日現在、人口は2,001人、世帯数は693戸である。

2 多彩で充実した教育事業

六条地区は明治の昔から子どもの教育に大変熱心であったと言われている。このよい伝統は今も受け継がれ、「子どもは地域の宝」「地域で子どもを育てよう」という気風に満ちあふれている。

六条公民館では、このような特徴を活かし、教育事業を中心としながら地区内のいろいろな主体と連携・協力して事業を展開している。

(1) 教えて先輩(達人に学ぶ)

～多彩な人材を輩出してきた六条地区～

教育に熱心な地元の温かい応援を受けて、六条地区出身の先輩が各界で活躍している。その方々の中から講師に招き、公開授業と講演をしていただく講座「達人に学ぶ」は、六条公民館・六条小学校・緑もえる里六条委員会の主催で、平成13年に始まった。第1

回の講師は東京で活躍していた書道家の故・稲村雲洞



さん。以降、バイオリニストの戸田弥生さん、アートディレクターの松山道明さんなど、全国的に活躍する多

彩な講師が最先端の文化や芸術を伝えた。

その後は、越前そば道場の故・中山重成さんやハナエチゼンの開発に携わった堀内久満さんら地元で活躍した人、大学教授など研究者や教育者も数多く登場。こうした文化人や教育者を多く輩出していることが地域の誇りで、講師陣に続く人たちを育む「種まき」としての期待を込め、公民館では事業を継続してきた。

平成26年からタイトルを「教えて先輩」に改め、若手中心に講師を招くようになった。この年は、宇宙航空研究開発機構の本部開発員の松村智英美さんが宇宙飛行士や宇宙食について紹介した。去年は、宇佐美文博さんが講師を務めた。宇佐美さんは、中学生時代からバレーボールを始め、高校では少年の部で国体に出場。一昨年地元の企業に就職し、福井県の代表選手として愛媛国体、福井国体に出場した。バレーボールの指導やバレーボールへの思いなどの話をしてもらった。



講座は6年生のクラスでの公開授業と、全校児童対象の講演の二本立てで、地区民にも案内している。地区出身の身近な先輩の授業とあって、児童らは毎年興味深く話に耳を傾けている。

(2) 「六条っ子田」の取組

～おいしい米作りの盛んな六条地区～

六条地区は、田園が広がり稲作が盛んであることから、子どもたちに稲作を体験させて、米作りを理解す

るとともに、その苦勞、ひいては働くことの大変さを実感してほしいと考えている。公民館の前にある田を「六条っ子田」として提供してもらい、4、5年生が、春の田植え、稲の生育観察、秋の稲刈りを行っている。田植えや稲刈りの際は、公民館が声をかけると、緑もえる里六条委員会の方たちがボランティアとして集まってきて子どもたちの指導をしてくださる。家庭で農作業を経験している児童はなく、貴重な体験となっている。



収穫祭では、「六条っ子田」で収穫したもち米を用いて、六条小学校の児童全員で餅つきを行う。苦勞して農作業をして収穫したこと、そしてお米となりお餅になって、おいしく食べられることに感謝をする。

(3) 学校と公民館が密接に連携した教育事業

公民館では、子どもたちが様々な体験を通して、地元の産業や自然への理解を深めたり社会性を身に付けたりできるように、六条小学校と連携して、授業の一環としての体験学習を実施している。昨年は、2年生は地元のお菓子屋さんでお菓子作り、3年生は農協の指導員に教えてもらって、公民館で味噌作りを行った。6年生は愛宕坂茶道美術館に向いてお茶をいただき、和の礼儀作法を学んだ。



公民館が計画や交渉を行うので学校の負担軽減になり、授業として実施することで、学校の教室だけではできない活動を全児童が体験できている。

3 地区挙げての行事

(1) 六条ふれあいまつり

「六条ふれあいまつり」では、米寿の方のお祝いから

始まって、こども園の園児や小学校の児童の歌や踊り、太鼓の発表に続いて公民館の自主グループの踊りや演奏が行われる。展示コーナーもあり、自主グループでの日頃の活動を発表し、広く地区民に知らせる機会となっている。最後は、足羽第一中学校の吹奏楽部の迫力ある演奏でフィナーレとなる。



当日は、各団体がやきとり、うどん、飲み物などの店を開き、多くの住民が顔を合わせ語り合える地区の一大イベントである。このまつりは、まさに名前の通り、子どもからお年寄りまでがふれあえる場となっており、地区の活性化につながっている。

(2) 左義長祭

年の初めの1月に、六条地区の自治会長、各種団体長が地区の平穩無事と発展を願ってお祓いを受ける「左義長祭」を行っている。併せて、地区内の厄年の方の無病息災のお祓いも行う。

六条小学校の校庭では正月飾りや書き初めなどが集められ、神主の点火により大きな炎となって燃え上がる。婦人会により豚汁などもふるまわれ、地区住民にとって新春の賑やかな恒例行事となっている。

4 終わりに

六条地区は、まちと田舎のバランスがよく、多くの公共施設が立地しており、住みやすい地区である。「地域づくり」は、行事や名所よりも「人づくり」との思いから、六条公民館では次世代を担う子どもたちの教育事業に力を入れている。

子どもも大人も皆が、六条地区に誇りを持ち、住み続けたいと願うような地区になるよう、地域コミュニティの形成に向けた地域づくりを今後も進めていきたい。

子ども中心のまちづくりを続けている六条地区。「地域づくりは人づくり」と強調される館長さんの言葉が印象に残りました。公民館を核とした地区の活動は、地区民の連帯感を深めるのに大きな役割を果たします。これからも、六条公民館が教育を大切にしながら充実した活動を展開し、子どもたちに伝統が受け継がれていくことを願っています。